

# いんじきは 研究室

(45)

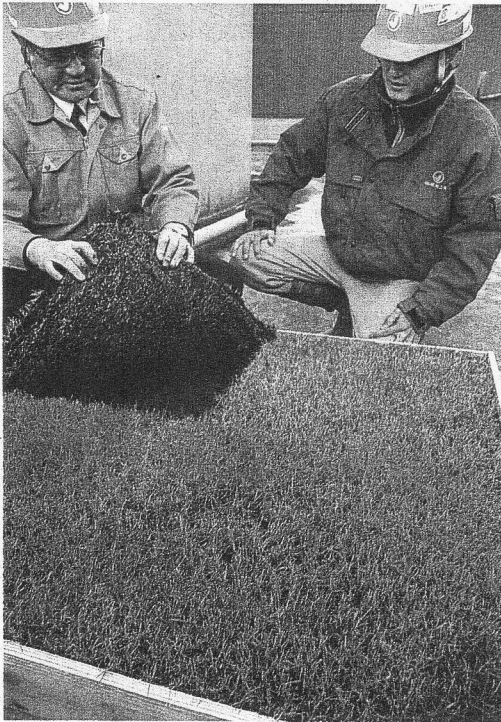
有機パワ―自体は10年前 発酵技術が土台になった。に開発された。砂利採取業 主原料の木片は、滋賀県のを営む同社は、良質の砂と 日本中央競馬会栗東トレ―を組み合わせ、競馬場の馬場 ニングセンターから仕入れや、ゴルフ場のグリーン作る。馬のひずめで細かく砕りを手掛ける。油かすと鶏 かれた緩衝床材だ。おからふんによるたい肥を30年以 や鶏ふんなどを加えて完熟 上前から作っており、その 発酵させ、ふかふかのたい

## 城南工建

(城陽市中)

城陽市の国道307号沿いにある2階建て社屋の屋上に、青々とした芝生が広がる。屋上緑化実験は2006年秋に始めた。開発したたい肥「有機パワ―」だけを、土に代えて防水シート上に15センチ盛っている。生育は順調だ。古瀬善啓社長(61)は「芝刈りや薬剤をまく以外、ほとんど手間要らず」と話す。

国の中小企業経営革新支援制度を活用し、有機パワ―を使った新しい緑化事業の展開を目指している。土壌軽量化が課題の屋上緑化で、たい肥は1立方メートル350キと通常の砂の3分1。その軽さは大きな強みだ。



1 四方の木枠の中で育つ芝生パネルの状況を確認する  
古瀬社長(左)と浦谷課長

## 有機たい肥で緑化実験

肥に仕上げる。

昨秋、新たな取り組みとして、1辺四方で厚さ5センチの木枠の中に有機パワ―を盛って種をまいた。夏芝と冬芝が半分ずつ茂る。「しっかり根が張り、たい肥が崩れない」と浦谷祥平課長(31)。近く民家のベランダなどにパネル状の芝生を設置し実証を重ねる。寸法など各家庭のオーダーメイドに応じて届ける。古瀬社長は「芝生が生活に取り入れれやすくなる。来年には市場参入したい。安定供給できるよう将来は工場も作りたい」と期待を込めた。

(松浦吉剛)

### 城南工建

1967年設立。資本金2200万円。従業員数63人。竹を原料にしたたい肥作りも昨春から試行。古瀬社長は校庭芝生化を支援するNPO法人・芝生スクール京都の副理事長。☎(53) 3939。